

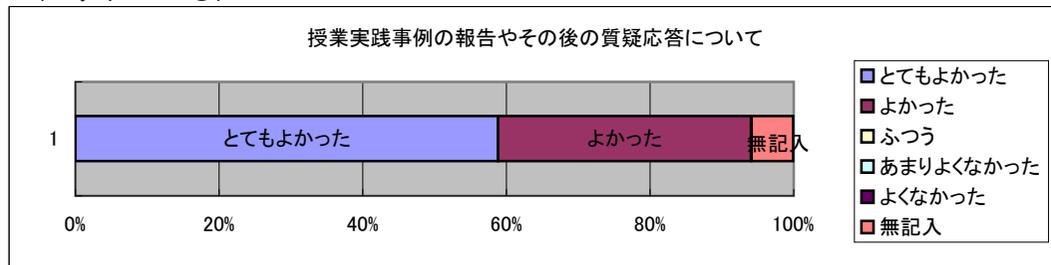
「大学授業研究会」アンケート(第6回1月21日)

日本文化学科：辰巳 都志先生 音楽学部：水島 茜先生

参加人数	32
アンケート回収枚数	17
アンケート回収率	53.1%

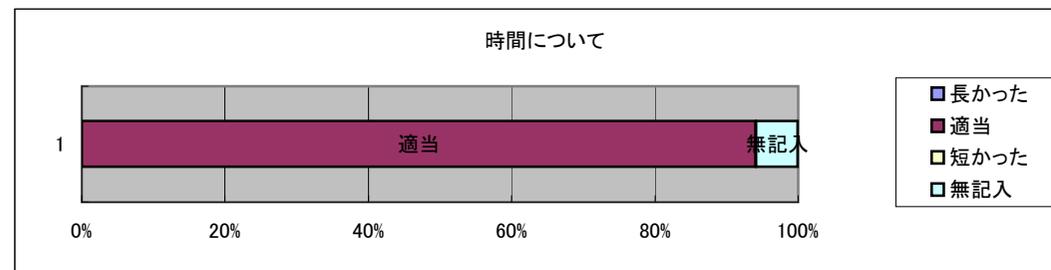
1. 授業実践事例の報告やその後の質疑応答について(いずれかに○)

とてもよかった	10
よかった	6
ふつう	0
あまりよくなかった	0
よくなかった	0
無記入	1



2. 時間について(いずれかに○)

長かった	0
適当	16
短かった	0
無記入	1



3. 自由記述コメント 15件

1 ユニークな内容で興味深く拝聴しました。

日常の業務があまりに忙しく、今回初めて参加することができた。学部・学科の枠を超えて授業実践例を学ぶことができ、大変有意義であった。特に、「論文法」の例は我々との学科その他の学科でも同様の授業があり、こうした類似の授業を担当する者同士が話し合える機会がもっとあればよいと思った。しかし、その前提として、教員にもっと時間的・精神的余裕が与えられなければならない。

3 お二人の感性を引き出す授業には大変勉強させて頂きました。私も書道を担当しており“表現する”という立場では同じテーマとなりますので。

4 2つ目の発表はもう少し具体例を使った説明が欲しかった。

5 スタジオM+など学内施設でも初めて知ることがあった。独自性のある授業を展開するために、利用できる施設の情報を教員が共有することは、意義があると思います。

・たつみ先生の授業方法や風景を紹介していただいたのですが、学生の皆さんの作品を紹介していただき良かったです。せっかく録画されていますので、1つの作品をフルに視聴できると授業の成果物に具体的に触れることができたかと思います。

6 ・永島先生の論文法は、卒業論文の指導教員が個々に指導された方が、教員・学生双方にとって、具体性があるのではないかと思います。

・お二人の熱意のある教育に対する姿勢に感銘いたしました。ありがとうございます。

- 7 日文と情報メディアとのコラボ、又、発表の中で、日文と音楽のコラボが起こりそうことに、学科の枠を超えた授業の可能性が見えてきた様に
8 思います。
9 「たつみ先生の授業を受講したい」と個人的に思いました。また、両先生の授業内容や姿勢は、全学科で共通してると思います。
10 論文法は私自身も卒論生指導時に悩んでおり、とても参考になりました。
論文を書かせる上で、学生の基本的なトレーニングができていないことは、私の所属学科でも同じでそれぞれに先生方がゼミで苦勞してお
11 られると思います。ただ論文法というふうな形で、論文そのものを書かせることなく、調査の仕方や書法だけ指導するのは至難かと思いま
12 す。今の学生は客観的に対象を論じる論文のような文章は苦手ですが、主観的なエッセイは得意です。私はエッセイと論文の間にコラムを
13 置いて2・3回生のゼミ生に600字コラムを毎週～隔週書かせ、コメントし、全員に返しています。そのことで、客観的に論じる文章、引用の仕
14 方、言葉づかいetcはだれでも一定の水準までは向上するのではないかと思います。
15 辰巳先生の授業では、どの分野に携わる学生にも何かを作りたいという思いを持つ者がいるのだなと再認識した。特に創ることに主眼を置
いた授業では担当者も楽しまねばということを実感した。又、永島先生の論文法位置づけの先生方の議論も興味深かった。
永島先生は一年目であり、色々と大変であったと思う。たつみ先生はベテランとしての経験をふまえたご講演であり、対照的でよかったので
はないか。
初めて参加させて頂きましたがとても興味深く拝聴させて頂きました。この経験を専門に生かしたいと思っています。ありがとうございました。
意見交換の中で出たとおり日文、音楽のみならず情報メディアなども参加し学内コラボを是非とも実現されたい。学部・学科の垣根をより低く
し、カリキュラム面、教員等、資源の有効利用を図り、より良い教育研究を創出されたい。
キャリアの異なる教員が関連のある科目の紹介をされ興味深かった。発表の中心に置かれているものがそれぞれ異なっていたが、望ましい
のはいずれか、と感じた(初出席だったので、他教員の様子分からず…)

4. 今後の希望 6件

- 1 大教室での〇〇概論といった基礎教育科目(学生としては食指が動かない科目)を担当しておられる先生の苦心談なども聞きたく存じます。
やはり根本的な問題は教員数対学生数の比率である。ちなみに、今回発表のたつみ先生「文芸創作Ⅰ」20名前後、文芸創作Ⅱ」は5～6名
2 で僅少科目である。つまり、学生から高い評価を得ながら科目の維持が難しくなる可能性がある。また、永島先生の「論文法」は必修である
のに16名の受講生である。さらにちなみに私の「文章表現法」は92名である。大学基準協会からも公式に指摘されたように、特に文学部、特
3 くに日文・英文・健スポは、卒論を必須としている学科として、専任教員数が少なすぎる。(あるいは学生数が多すぎる。)この問題の放置は、
学生の満足度さらには大学の評価にもつながることである。上層部のお考えの大胆な“チェンジ”を大いに期待するものである。
大きいテーマ(例えば論文の指導、本を読ませる方法、創造力の育成方法)を設定してそれにもとづいて、いろんな学科から意見を持ちよる
4 ような発表－報告もよいのではないのでしょうか？
- 4 授業で使用可能な大学施設の紹介プリントの配布
学長がわが学科のスタジオを御承知ないのは意外で、残念に思いました。機器をつかう手助けのできるスタッフを(今、学科予算できても
5 らっていましたが)きちんとつけていただければ全学的にこの宝を活用できます。
- 6 実際にこの会で伺ったことを参考にして、学生から良い反応があったこともあり、次年度以降も続けていくべきと考える。

5. 所属

日文
 英文
 教育
 健スポ
 心福
 環境
 食物
 情報
 建築
 音楽
 薬学
 共通
 教研
 事務
 無記入
 計

4
 1
 0
 1
 0
 2
 2
 2
 1
 2
 0
 0
 0
 2
 0
 17

